

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	14-311	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
<p>The effect of an educational intervention on alcohol consumption, at-risk drinking, and health care utilization in older adults: the Project SHARE study.</p> <p>高齢成人におけるアルコール消費、リスクのある飲酒、健康ケア利用に関する教育的介入の効果: Project SHARE 研究</p>		
執筆者		
Ettner SL, Xu H, Duru OK, Ang A, Tseng CH, Tallen L, Barnes A, Mirkin M, Ransohoff K, Moore AA.		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2014 May;75(3):447-57.		
キーワード		PMID
高齢者飲酒、飲酒量、危険な飲酒		24766757
要旨		
<p>目的: 本研究の目的は、高齢成人の間で危険な飲酒を減少することへの患者-プロバイダの教育的介入の効果を調査することである。</p> <p>方法: 31のプライマリケア・プロバイダと60歳以上の患者の7つのクリニックによる地域に密着した診療での、集団-無作為対照臨床試験であった。2005年7月から2007年8月までに試験に参加した。適格性は電話と試験開始時のメールされた調査によって決定した。合計1,186人のリスクのある飲用者は、Comorbidity Alcohol Risk Evaluation Toolによって同定された。追跡患者調査は、試験開始時と、その3、6と12ヵ月後に行われた。</p> <p>研究医師と彼らの患者は通常ケア群(n = 640 患者)または Project SHARE (上級 Health と Alcohol Risk Education) 介入群(n = 546 患者)に無作為割付けされた。Project SHARE には、個別化された報告、教材、飲酒日記、クリニック訪問中の医師アドバイス、健康教育者によって加えられるカウンセリングの電話が含まれている。</p> <p>主要なアウトカムは、アルコ消費量、リスクのある飲酒(全体的に、タイプによる)、医師との飲酒についての議論、健康ケアの利用、そしてスクリーニングと介入にかかった経費であった。</p> <p>結果: 12ヵ月で、介入は医師とのアルコール関連の議論の増加に有意に関係し(23%対13%;$p \leq .01$)、そして、リスクのある飲酒の減少(56%対67%;$p \leq .01$)、アルコール消費量(1週につき-2.19杯の飲物;$p \leq .01$)、医師への受診(-1.14の訪問;$p = .03$)、救急治療部への受診(16%対25%;$p \leq .01$)、そして、非職業的ケアギバーの訪問(12%対17%;$p \leq .01$)と関係していた。患者1人当たりの平均的変動費用は、スクリーニングのための31ドルと介入のための79ドルであった。</p> <p>結論: 介入は、高齢成人の間でアルコール消費とリスクの飲酒を減らした。効果は1年にわたって持続して、健康ケア利用の低下と関係していた。そして、それはスクリーニングと介入経費を相殺した。</p>		